

第一回専門委員会でのご意見とその対応について

1 選定基準の考え方について

NO	内容	対応案	委員名
1	「事業想定額は適切かどうか」精査が必要。事業想定額は建物によって変わってくる場所もあり、事業想定額で優先度が変わると思う。事業想定額が適切かどうかというような、そういったものを入れて、この場所における工事の見積もりを付与させては。	基準は政策的基準の項に入れたい。金額の実際の見積もりは設計段階(導入決定後)まで不明のため、「定性的」にはなるが、「事業費の増減要因」を記載したい。太陽光の設置場所と避難所の距離関係や蓄電池の設置場所などから「配線距離」や「設置方法」及び「仕様変更」により工事費に差が生ずるため、それらの内容を記載。	倉阪委員
2	太陽光パネルの耐用年数に合わせ、建物が20年間、保たれるのか確認すること。「改修計画や老朽化の状況」には、個票を見ると建築時期が書いてない。優先順位を事業間でつける際には必要。	「建築・改修時期等の状況」と改め、まとめていく。具体的には、建物の建築時期、改修時期と建て替え予定並びに今後の活用予定を記述したい。	倉阪委員
3	南側に高い建物が建てられると発電量が落ちるので、それも含めて考える必要がある。	「周辺に高い施設がないか、またその予定はないか」において記述することで対応したい。	倉阪委員
4	災害対策基準の中に「避難所運営委員会の活動状況」があるが、「避難所運営委員会ができていれば活動状況の中に入るのか」それとも「実際に状況をヒアリングして」精査するのか。	今回は特段のヒアリングは行わないが、今後、必要になるのかどうかの精査は必要と考える。今年度の避難所運営委員会との連携も踏まえて判断して行きたい。	深味委員
5	場所の選定においては、災害対応の重要度として選定するのか、運営委員会の熟度で選定するのか。	現状ではどちらかで選定をするというのではなく、「災害対応」及び「避難所運営委員会」のそれぞれが必要な要素と考える。	深味委員
6	災害時にライフラインがとまったときに設備を運用するとのことであれば、「運営委員会の活動」がしっかりしている必要がある。	「運営委員会」は設備の活用主体であり、選定にあたり、運営委員会との連携が確実なものとなる必要がある。事業の進め方も含め、連携を強化していく。	深味委員
7	「ライフラインが止まった時に困る」避難所を選定することも重要度が高い。	「ライフラインが止まった時に困る」避難所について、項目を明確にしたい。一点は地域の現況(民家の築年や道路状況など)、もう一点はハザードマップの内容が考えられる。整理のうえ、基準に盛り込みたい。	深味委員
8	高齢者の割合的なこともファクターには入ると思う。地区ごとの高齢者の割合があれば、少し考えておかなければいけないと思う。	政策的な観点から、基礎情報として含める方向で整理したい。	前野委員
9	設置した後、数年で建て替えてしまうのはもったいないため、気をつけなければいけない	建て替えや大きな改修で撤去することがないように、「候補」を選定する。	前野委員
10	余り判断に影響のなさそうな基準は削ってみては(「地域づくりの必要性」、「モデル的になるか」等)。	ご指摘をふまえ、基準の整理をする。第二回専門委員会で案を提示する。	倉阪委員

2 導入場所の考え方について

NO	内容	対応案	委員名
1	登戸小学校の校舎の建築時期が昭和37年だが、今後も使うのか(千葉大でも、昭和40年代は建て替えや耐震補強で対応している)。	確認した数字に間違いがあり、建築年は昭和45年であることを確認した。また、今後、数十年での建て替え予定はない。	倉阪委員
2	登戸小学校は(4校のうちで)一番被害の可能性が多いのでやるべきかと思う。また、椿森中学校は延焼率が高いところにあるためやるべきかと思う。	想定される災害への対応について、避難所運営委員会との連携時の検討材料としたい。H26年度の2カ所はモデル的な導入と言う観点から選択するが、今年度の対象とならなくとも、来年度も候補として精査していきたい。	深味委員
3	設備の設置場所について、例えば駐輪場の上などいろんな可能性があり、(建て替えが予想される場合は)建物から離しておくといったことも含めて柔軟に考えたほうがよい。	ご指摘を踏まえ、設置可能箇所については屋上を前提にしつつも、屋上のみ限定することなく考えていきたい。	倉阪委員

3 導入設備の考え方について

NO	内容	対応案	委員名
1	太陽熱のようなもの、あるいは冷熱を保存しておくようなもの、こういったことが予算内で可能かどうかとか、その辺も少し考えながらやっていったほうがいい。	太陽熱設備や地中熱設備を選択することは可能である。なお、災害時と通常時の両方で活用するかどうかの検討は必要となる。その他の再エネ等設備を検討するプロセスを含めたい。	前野委員
2	蓄電池の本体価格が若干高いようなので、精査いただきたい。	他都市の入札結果などを考慮したい。なお、事業者からのヒアリングでは事業用と家庭用では使用する機器性能が異なり金額の差になっている。(kWhあたりの単価は事業用が高くなる。)ただし、金額を下げる努力は必要と考える。	倉阪委員
3	蓄電池の活用については、昼間に蓄電をして、夜間に電気を利用するという形では。	夜間に商用電源を購入して、昼間のピーク時間をカットする方向で考えていた。ただし、余剰分を蓄電に回して、その分を夜間で活用する形(使用電力の低炭素化)のほうがより低炭素となるため、指摘の方向で運用を検討したい。	倉阪委員
4	20kWhを超えるような電気自動車の大電量の蓄電池を使ってもよいようにするなど、補助金のみならず、具体的に実現可能な方法を探っていくことも必要では。	民間事業者(私立大学)の意向など踏まえて事業検討を進めたい。どのような設備活用ができるかメーカーヒアリング等も行っていく。	前野委員